



## ～加速する変革を受けとめ 建設業の社会的使命を果たす～

一般社団法人栃木県建設業協会

会長 谷 黒 克 守

定時総会が5月29日に滞りなく終了いたしました。会員の皆様の御協力に改めて感謝申し上げます。

また、引き続き会長職をお任せいただくこととなり、誠に身の引き締まる思いでございます。今回の役員改選で退任された入江副会長、山根副会長、増淵副会長にはこれまでのご功績に対し、感謝の念に堪えません。新役員ともども誠心誠意本会運営に当たってまいりますので今後も御支援をよろしくお願いいたします。

今年始めの能登半島地震では、甚大な被害が発生したところであり、お亡くなりになりました方のご冥福をお祈り申し上げますとともに、今なお避難生活を強いられている皆様にお見舞いを申し上げます。

此度改めて直下型地震の恐ろしさを身にしみて感じたところですが、会員の皆様には自然災害時にも『地域の守り手』としての使命を果たしていただきたいと思っております。

しかしながら、近年では従事者の高齢化や若年労働者の入職率の低下により、建設業の将来を担う人材の確保・育成が困難になりつつあり、長年培われてきた技能・技術の伝承も課題となっております。

また、今年4月から建設業にも残業時間の上限規制が適用され、業務効率化や生産性向上といった対策がより一層必要となっております。

このため、働き方改革、DXの推進など積極的に対応するとともに、建設業の役割への理解促進を図る広報活動にも取り組みながら、新しい担い手となる若者が魅力を感じる、新しい建設業へと積極的に進化を遂げて参りたいと考えております。

なお、私たち建設業が課せられた社会的使命を十分に果たしていくためには、健全で安定した経営が不可欠です。今後も国や県に対して、公共事業予算のさらなる確保、とりわけ国土強靱化に向けた予算がしっかり確保されるよう強く要望してまいります。これからも建設業が、「地域の創り手・守り手」として地域から信頼され、地域から愛され、地域に存続していくよう、災害対応はもちろんのこと社会資本整備やその維持管理にもしっかりと取り組んでいく決意です。

最後に、会員皆様の日頃の鍛錬と力の結集が、引き続き今後生じるであろう自然災害等の事態での、確な対応へとつながることから、日頃から準備等に怠りなきようよろしくお願い申し上げます。引き続き、会員相互の連携により、建設業が、県民の皆様の安全で活力に満ちた生活を実現する「地域の守り手」や「地域の創り手」としての社会的地位をしっかりと定着させていくために、皆様に有益な事業展開を図って参りますので、引き続きご支援、ご指導、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。